



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院、「出前講座」始めます。

当院は平成30年4月より、金武町、宜野座村、恩納村の3町村で認知症初期集中支援チーム等を設置し、毎月事例検討を行い、地域の認知症の早期発見、早期対応、重症化予防を目指しています。会議を重ねていく中で、当院の専門的な認知症治療が地域住民に周知されていない状況が見聞され、当院の情報力不足を痛感し、看護部門を中心に「出前講座」を検討しました。

当院の強みである、専門性の高い治療を地域住民に広報することにより、もっと身近な病院として役立ち受け入れられるよう、出前講座を通して当院のスタッフが直接地域住民と一緒に病気について学ぶ機会をつくり、当院への理解を深めていただけるような講座を目指していきます。

出前講座を行う2つの病棟を紹介します。

北1病棟は、飲酒問題を抱えた人の治療を行っています。本人だけでなくご家族への支援も取り組んでいます。

東3病棟は、認知症急性期及び症状悪化時の治療、身体合併症の治療、短期間入院、終末期ケアに取り組んでいます。

出前講座のテーマは下記のとおりです。

| テーマ | 講師 | テーマ | 講師 | テーマ | 講師 |
|--------------------|-----------|----------------|-----------|-------------------|-----------|
| 認知症の早期気づきと治療のために | 医師 | なかなか聞けない認知症のこと | 看護師 | 認知症を防ぐ食生活 | 管理栄養士 |
| 認知症とは？病気の特性と予防について | 医師 | 認知症のあれこれ | 看護師 | 認知症チェックと対策について | 公認心理師 |
| 認知症の薬物療法 | 医師 | ものわすれ予防教室 | 作業療法士 | 認知症で困った時にかけ込む相談窓口 | 精神保健福祉士 |
| アルコール依存症 | 医師 看護師 | 薬物・ギャンブル依存 | 医師 看護師 | ネットゲーム依存 | 医師 看護師 |

これから始まる出前講座の経験を積み重ねて、地域住民のニーズに合ったテーマを追求し、琉球病院スタッフ一同が質の高い医療を提供できるように展開していきます。

経営企画室より

● 地域医療連携室だより

琉球病院の地域医療連携室には、毎日多くの相談があります。受診相談や治療についての問い合わせ、年金などの経済的な相談など様々な問い合わせがあり相談員が対応しております。患者様やご家族との関わりの中で学ぶことも多く、日々精進しなければならないと感じております。初診の方に関しましては予約制となっておりますご案内までお待たせしてまいご迷惑をおかけしておりますが、お困りの事がございましたらどうぞお気軽に地域医療連携室までお問合せ下さい。

院長

ふくじ やすひで
福治康秀



1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

病床数

416床

- ・ 精神科病棟 151床
- ・ 認知症 56床
- ・ アルコール 54床
- ・ 児童思春期ユニット 4床
- ・ 重症心身障がい 90床
- ・ 医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 **8:30 ~ 17:15**
(土・日・祝日以外)
TEL **098-968-2133(代)**
内線 **231・234**

地域医療連携室(直通)

TEL **098-968-3550**
FAX **098-968-7370**

治療抵抗性精神疾患への医療

医師 木田 直也



クロザピンの治療状況

2010年2月から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は延べ298例になりました。2020年1月のCLZ導入は2例で、このうち1例は他の病院からご紹介をいただきました長期入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。当院でのクロザピン治療や沖縄県での地域連携の実態については、ノバルティスファーマの医療関係者向けサイトDR's Net (<https://drs-net.novartis.co.jp/dr/>)でも動画が公開されていますのでご参照ください。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。

こども心療科

心理療法士 仲間 信也

県内で子どもの心の問題や発達に関する相談を担う医療機関が増えてきたこともあり、こども心療科の初診までの待機期間は一時期よりは短くなってきました。しかし、まだまだ気になった時、相談したいと思った時にすぐに診察対応できない状況が続いていることを、心苦しく思っております。その課題解決に向けて、県より委託を受けている「こどもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、医療機関への支援に取り組んでいます。取り組みの1つとして、地域の医療機関が安心して診療が行えるよう、他機関の職員への研修や病院見学の受け入れ等を通して、こども心療科で行っている診療の実際やノウハウについて発信しています。2020年度も、発達障害の診療に力を入れていきたいと考えている医療機関のスタッフを研修生として受け入れる予定となっています。今後も、身近な地域で必要な支援が受けられる体制整備に向けて、取り組みを進めてまいります。

認知症医療

東三病棟師長 宮城 尚子

認知症は、予防が大切です。軽い認知症になり始めても脳を刺激したり生活習慣を整えることで、認知症の進行を止めたり、遅らせたりすることができます。リハビリを受けていない人が、1年後に認知機能が下がっていたのに対し、リハビリを受けた人は認知機能がアップしていたとの研究データも報告されています。認知症予防のために、認知リハビリテーションが効果があることが分かってからは、全国各地で公民の健康教室や施設でのレクリエーションなどに取り入れられています。当院でも以前は、「もの忘れ予防教室」の取り組みを実施していましたが、現在は、地域実施に移行しました。病院側の支援として、もの忘れ予防教室で行ってきたプログラムやノウハウをお伝えすることも可能です。今後、取り組みを検討されている地域の支援者の方や各施設の皆様、出前講座なども可能ですので、ご要望やお聞きしたいことなどがあれば地域連携室へご相談ください。

重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

令和2年度がスタートします。琉球病院の重症心身障害病棟は昭和51年開棟し43年が経過しました。新病棟が建築され病床数は80床から90床へ増床しました。障害保健福祉施策の歴史は措置制度の時代から、平成15年に利用者がサービスを選択する支援費制度の施行、平成18年障害者自立支援法、平成25年障害者総合支援法施行と、相談支援の充実及び支援強化がはかられました。当病棟においては療養介護及び医療型障害児入所における支援を実施しており、最近では短期入院によりベッド回転率をあげ地域のニーズに応えられる体制づくりを行っています。今後も医療、看護、療育、リハビリ等が連携し総合的な療育を提供致します。

アルコール・薬物依存医療

北病棟師長 長 祥子

依存症の患者様は、「人を信じられない」「孤独で寂しい」「自分を大切にできない」などの特徴を持つことが多いといわれています。依存症の入院治療の目的には、仲間作りをすること、相談できる人や安心できる居場所を作る・見つけるなどがあります。入院患者様同士のコミュニティが退院後の生活に活かされて欲しいですし、入院中に繋がった自助グループ、私たち医療者も患者様にとって相談しやすく安心できる人・環境になればと思っています。

現在、コロナ対策で様々な催しものが中止されています。自助グループのミーティングも開催しにくい状況と思われます。調子を崩しそうな場合は電話相談を受け付けていますのでぜひご相談ください。

包括的地域精神医療

訪問看護師長 嘉手苺 美智留

2月の訪問看護件数は665件で、今年度一番少ない利用でした。2月は、訪問中止や終了が合わせて53件あり、新規の申し込みは2件にとどまっていた。1月より訪問日数が1日少ないことも件数減の要因の一つと思われます。市町村別訪問看護実施者数は、うるま市が64件と1番多く、次いで金武町63件、名護市57件となっています。新型コロナウイルスが全国的に発生し、増加傾向にある中で訪問看護もマスク装着と、アルコール消毒を携帯しながら利用者様と、ご家族の体調を確認しながら訪問看護を実施させて頂いている状況です。1日も早く感染がなくなる事を願っています。3月は別れと新しい出会いの移行期です。利用者様の主治医の変更がある方もおられると思います。季節の変わり目、心身共に健康で過ごせますようにと願うばかりです。

臨床研究部活動状況

心理療法士 我喜屋良行 諸見優子

『ADHDペアレントトレーニング 複数機関実施における無作為比較試験』 OISTとの共同研究の進捗状況報告

ADHDの治療について、薬物療法と行動療法を組み合わせた包括的治療が最も効果的であることは報告されておりますが、日本においては薬物療法に関する研究が盛んであるのに対し、心理社会的支援に関する無作為比較試験は極めて少ないのが現状です。

2019年7月よりOIST(沖縄科学技術大学院大学)と『ADHDペアレントトレーニング複数機関実施における無作為比較試験(RCT)』において共同研究を始めております。主任研究機関であるOIST、また福井大学病院、久留米大学病院、当院が共同研究機関として本研究を始めております。2020年3月までに2グループ16名の保護者に参加いただいております。これまでの進捗状況をご報告いたします。

参加された保護者より、「イライラが減った」「子どもに落ち着いて接することができる」「子どもが興奮せずに落ち着いている」など肯定的な意見があがっております。実施者からは、「参加する保護者の雰囲気柔らかくなった」「余裕が感じられる」「子どもへの要求水準を見直している」など参加される保護者の変化を感じております。また母親同士のコミュニケーションが活発に行われ、これによりお互い共感しつつ、対応の工夫を教え合い、エンパワワされている印象がありました。今後も地域への普及を目指し、研究を継続していきます。